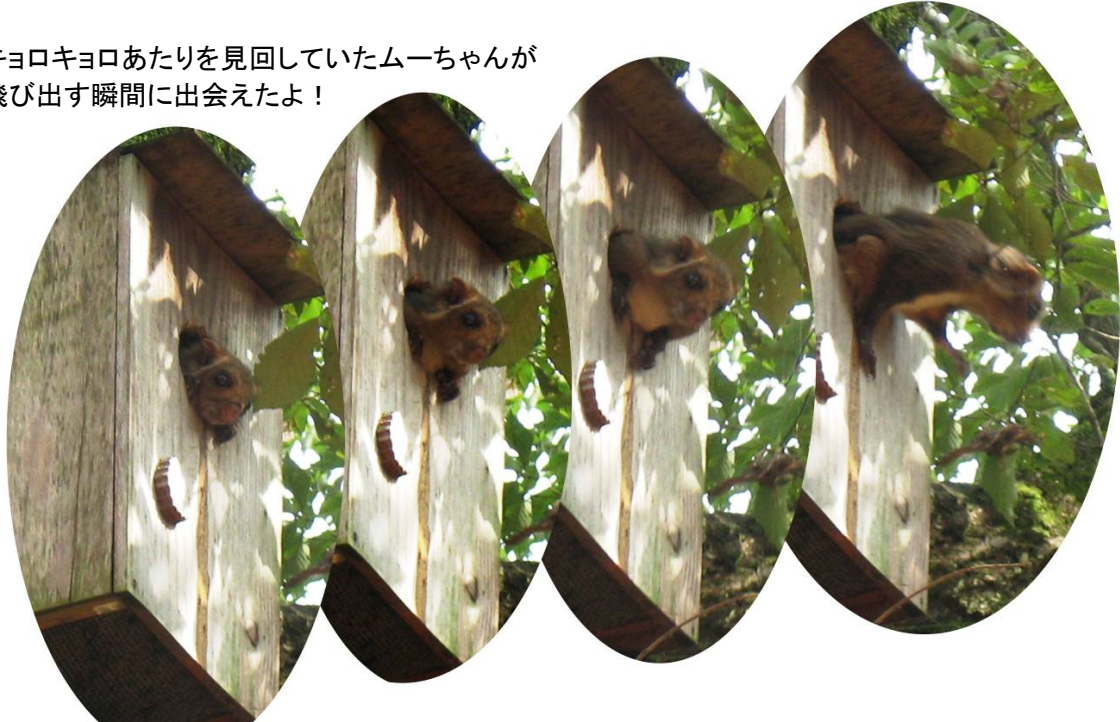


ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007

キョロキョロあたりを見回していたムーちゃんが
飛び出す瞬間に出会えたよ！



特集 海上の森はいま

第4回 人と自然の共生国際フォーラムが開催されました



この人!

「きのこの魅力」三河きのこの会 木村 修司さん

海上の森センター ライブラリー新着図書を紹介します

絵本「ブナの森は生きている」

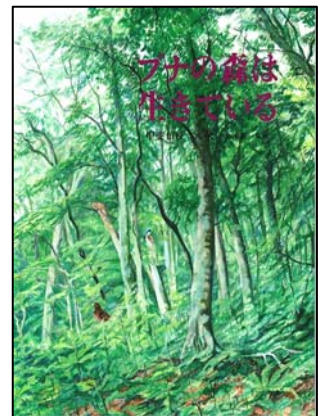
とおいとおい昔から、ほろびたことがないというブナの森。

著者は、ブナの森に足を運び、春の芽吹きから、台風通過後、豊作年のブナの実、吹雪の中のブナの森までじっくり観察し、5年もかけてこの絵本を制作されたそうです。

見かけは静かで動きもないように見えるブナの森が、じつはとてもダイナミックに動き、生きていることを見事に表現されている絵本です。

甲斐信枝 ぶん・え 山本進一 監修

※現在、絶版となっていますが、監修をされた名古屋大学教授の山本進一先生から寄贈いただきました。



特集 海上の森はいま

第4回 人と自然の共生国際フォーラムが開催されました

本フォーラムは、愛知万博の継承事業として2007年から開催され、第4回となる今回は、「生物多様性から人と自然の共生を考える ～ COP10に向けて森林・里山からの発信～」をテーマに、9月にフィールドワーク（12日／海上の森コース・25日／知多半島コース）、10月16日にポスターセッション、そして翌17日に活動事例発表会、基調講演、パネルディスカッションを開催しました。

フィールドワークでは人々の活動とかかわりを持つ自然を見学し、その内容は活動事例発表会でも報告されました。活動事例発表会は今回から新設されたもので、ファシリテーターに COP10 などや生物多様性アドバイザーの長谷川明子氏を迎え、県内の企業や活動団体が取り組みを発表し、活発な意見交換が行われました。



基調講演には、国連大学副学長の武内和彦氏を招き、「里地・里山と生物多様性」という内容で講演をしていただきました。続くパネルディスカッションには、コーディネーターに京都大学生存圏研究所教授の川井秀一氏、パネリストに武内氏、名古屋市立大学准教授の香坂玲氏、農林水産省生



物多様性戦略検討会委員の宇根豊氏、コメンテーターにあいち海上の森センター名誉センター長のマリ クリスティーナ氏を迎え、活動事例発表会の話題も交えながら、様々な観点から森林・里山の生物多様性について議論していただきました。



このパネルディスカッションでの議論を受け、参加者一同の拍手により採択された「フォーラム宣言」では、COP10を機に高まる生物多様性への関心を森・里・海を守る活動につなげ、自らも具体的に行動していくことが約束されました。

また、このフォーラム宣言は10月23日から26日まで、COP10会場に隣接する白鳥地区で開催された「生物多様性交流フェア」にて英語を併記し



てパネル展示され、より多くの人たちへ関心の輪を広げることとなりました。



※詳細につきましては、今後ホームページに掲載しますので、ぜひそちらもご覧ください。

<http://www.mu-academy.jp/daigaku/index.aspx>



「きのこの魅力」 三河きのこ会 木村 修司 さん

きのこや野鳥の観察をライフワークにされており、海上の森の調査学習会（きのこ）の講師やあいち海上の森センターでの展示を行った木村さんに、きのこの魅力について伺いました。

ム：きのこの魅力は食べられることでしょうか。

木：野生のきのこのことになると、ほとんどの人は「このきのこは食べられますか。」と質問します。食毒も分類のひとつですが、私にとって「きのこ」とは草花や昆虫と同じ自然観察の対象の生き物です。色、形、匂いなど実にさまざま何度見ても飽きません。

ム：特に興味のあるきのこは何ですか。

木：きのこの中には、ハチやセミなど昆虫から発生する冬虫夏草菌という奇妙なきのこがあります。小さいものが多く、とても見つけづらいのですが、反面、見つけたときの喜びは大きく、林の中で宝探しをしている気持ちです。

ム：観察会や講演などで活躍されていると伺っていますが、きのこを通じて皆さんに伝えたいこ

とはどんなことですか。

木：安易に野生きのこの食毒を判断して食べないでください。図鑑には掲載されていない食用きのこに類似したきのこがたくさんあります。食べるのは、よく似たきのこ確実に見分けられるようになってからにしてください。また、きのこを含む菌類は落葉や枯木、動物の排泄物などを、植物が栄養として利用できる無機物に分解しています。きのこは食べられるためにあるのではなく、自然界の中で重要な働きをしていることを理解してくれる人が増えることを願っています。

「昆虫少年の成れの果て」を自称する木村さんの言葉の端々からは、長年自然観察を続けてこられた重み、活動に対する情熱、生物に対する深い愛情が伝わってきました。

プロフィール

豊田野鳥友の会会員、三河きのこ会会員
野鳥、野生きのこに関する観察会講師、
調査多数。博物館等公共施設でのきのこの
展示、著書（共著）多数。豊田市在住。



センター職員の随想リレー

かたりべのひと言
—海上の森の絶景—

私は昨年7月からあいち海上の森センターで仕事をしている。以前、森林とは木々に囲まれ小川のせせらぎがあるのんびり過ごせる印象であった。しかし、森林に人が加わることで様子が異なる。海上の森を活用するために自然を教材にした体験学習をする「森の楽校」は森林と人が溶け込む体験であると感じた。というのも季節の花にうっとりしたり、イノシシの足跡に驚愕したり、ムササビに会えて喜びを感じたりして自然を体感しているのを実感するからである。特に印象に残った体験は物見の丘に登って野鳥に耳をすまし俳句を作ったことである。晴天のおかげか海上の森の全体の景色を眺めることができ、人々と共感できたことが嬉しい一瞬であった。普段は温度測定のために物見の丘に登ることが多いですが、海上の森に立ち寄った際は素晴らしい景色を一望して下さい。(T・T)

森のなかま

テン 海上の森に住む哺乳類の多くは、夜行性のため、めったに出会うことはありませんが、赤外線センサーを利用した写真撮影では、動物たちの行動を垣間見ることができます。

佐渡のトキの天敵として話題になったテンですが、愛知県のレッドデータリストでは準絶滅危惧（NT）に指定されています。主に樹上で活動し、夏毛の色は個体によって違い、キテン、ステンなどと呼ばれます。体長 40～50cm、尾長 17～23cm、体重 0.8～2kg で、小動物、昆虫、果実などを食べます。尾の先が白いことが特徴で、冬毛では顔が白く、体はあざやかな黄色になります。

(平成 22 年 7 月 23 日
早朝 遊歩施設内にて)



展示の目玉

生物多様性解説看板を設置しました

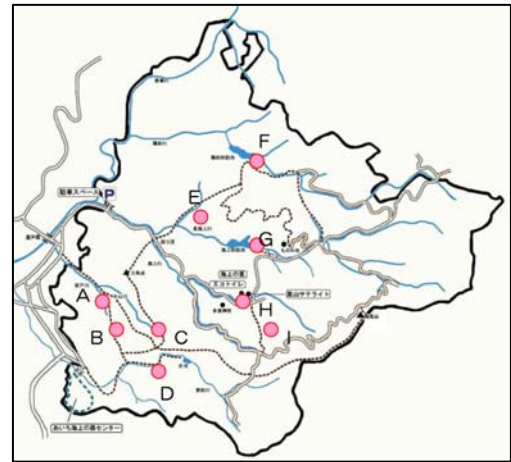
あいち海上の森センターでは、今年の8月に海上の森の生物多様性を解説する看板を、森の中に7箇所設置しました。3月に環境部自然環境課が2箇所設置しており、合計9地点で解説看板を見ることができます。



看板の左上の記号は、生物多様性のイベント参加者に配布している「海上の森の生物多様性 見てある記」に対応しています。看板の内容と目の前の自然を見比べ、海上の森の生物多様性について理解を深めていただけたらと思います。

【設置場所】 ※ 右上図参照

(A)貧栄養湿地、(B)シデコブシの沢筋湿地、(C)砂礫層地域と花崗岩地域の境界、(D)野鳥・古窯の森、(E)四ツ沢北東部特別地区、(F)篠田砂防池、(G)海上砂防池、(H)海上の里、(I)ため池



その他のお知らせ

～ ツキノワグマにご注意 ～

あいち海上の森センターに『平成22年10月27日午前10時30分頃、海上の森内(広久手町地内)でツキノワグマを見た』という情報が寄せられました。足跡等は確認できませんでしたが、瀬戸市内及び隣接する豊田市内でも目撃・確認されていることから、あいち海上の森センターでも注意を呼びかけています。

森内の散策の際には、単独行動を避け、鈴などの「鳴り物」を身につけて歩くなど人間の側からツキノワグマに出会わないような工夫をしてください。

イベント・参加者募集 もりもり 来まれ!

イベント名	開催日	定員	募集期間
里山のものづくり -炭焼き-	1/22(土) 23(日) (2日1セット)	30名	11/22-1/8
海上の森 生物多様性ツアー	3/27(日)	50名	1/27-3/13
対象：小学生以上、ただし小学生は保護者同伴。			
《応募方法》 官製はがき、FAX または E-mail に参加者全員分の ①イベント名②住所③氏名④年齢⑤電話番号 を記入し、申込期限(当日消印有効)までに、下記申込先へお申し込みください。申込多数の場合は、抽選により決定し結果を通知します。			
《申込先》 NPO 法人 海上の森の会 (〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1 「あいち海上の森センター」内「海上の森の会」事務局 TEL/FAX:0561-21-9298、E-mail:morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp)			

編集後記：名古屋で開催された国連生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が無事閉幕しました。「愛知ターゲット」と地元の地名の入った目標が定められるなど注目の愛知県ですが、海上の森の散策を通し、生物多様性について理解を深めていただければと思っています。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)
発行日 平成22年11月16日
 〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1
 TEL 0561-86-0606 FAX 0561-85-1841
 E-mail kaisho@pref.aichi.lg.jp
 URL <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

